

先輩の言葉 若い先生も、本当は仲良くなりたい！

1 学期は馬車馬のごとく

4月は新学期の忙しさで記憶がなく、5月は行事（運動会・校外学習等）の準備の忙しさで記憶がなく、6月は学級を落ち着かせることと成績処理で記憶がなく……。教員の仕事はどこまでも忙しさがついてきます。そんな中で7月まで何とかやってこれたということがすごいことで、がんばった自分に対して「よくがんばったね」といってあげたいです。

ほっと一息つける夏休み期間。研修や職員作業などが入り、みんなが和やかに話している……。

私は、そんな職員室の時間がゆると流れる全員出勤日が大好きでした。

先輩と仲良くなれたとき 嬉しかった 震えるほどに

だけど、若手のころ（初任者や異動したての頃）は、少し緊張したものです。みんな仲良しでいいな。雑談に入れるかな。話しかけられたらどう答えよう。

だからこそ、夏休みのあの穏やかな時間に今までなかなか話せないようなことを話し、聞けなかったことを聞いて、少しずつ仲良くなれたとき、本当に嬉しかったことを覚えています。なんとなく学校への足取りが軽くなったことも覚えています。「私は、この職員室の一員にやっとなれたのかもしれない」と職場が居場所になっていったのでした。

既存の人間関係に入るのって勇気がいる

そこから数年が経ち、職員室でのコミュニケーションの取り方も分かってきました。異動しても少しずつ自分から話しかけられるようになりました。ふと辺りを見回すと、みんなの輪にいるのかいないのか、入っていいのかどうなのか、曖昧な顔をした若い先生が……。

ああ、私もそうだったなあ。すでにある人間関係に入っていくのって、ドキドキするよね。その先生に話を振ってみました。すると、一瞬でほっとした表情に変わりました。ああ話しかけてよかった。

相手もだけど 自分からも

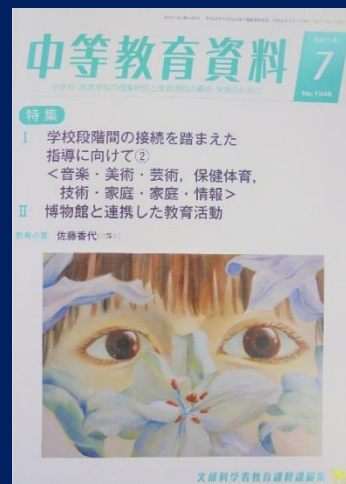
人間関係ですし、もちろん相手からの歩み寄りも必要です。ですが、自分が元からいる人の場合、先輩の場合、先に歩み寄ってもよいのかなと思います。

職員室が先生全員の居場所になることは、間違いなく、子どもたちのためになりますもんね。

（授業力&学級経営力7月号より）

教育図書のご案内

下記の月刊誌があります。貸出できます。



お問い合わせください。

昨年度のバックナンバーもあります。

週刊の日本教育新聞も取り揃えています。